

＜金標準先物、世界的なインフレ抑制を受け 7700 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

注目されたFOMCでFFレートの0.5%引き上げを実施し、8兆9000億ドルまで拡大したFRBバランスシートの削減も6月1日から国債とMBSの合計475億ドルの削減を開始し、9月から各々600億ドル、350億ドルの950億ドルへ削減を拡大する。

パウエルFRB議長は記者会見で「インフレはずいぶんと高過ぎる。それがもたらしている困難をわれわれは理解しており、インフレを押し下げるべく迅速に行動している」と説明したが、市場が期待した6月のFOMCで0.75%の利上げは否定し、0.5%と言及している。またイングランド銀行も0.25%の利上げを実施するなど、世界的な規模でインフレ抑制の利上げが実施されている。特に米国では10年物国債の金利が3.14%を付けるなど、金利上昇が鮮明になっている。

特に金利を生まない金価格は、金利上昇の本格的な動きが強まり、金融政策の違いから円安効果を受けて金標準先物は買われていたが、世界的なインフレ抑制の姿勢を受け、8000円を超える事が難しくなり、更に今週の消費者物価指数の発表を控え、ゴールデンウィーク中の安値7738円を試す可能性が高まると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下がり、シグナルも下げている。またRCIも短期が一時反転しているが長期は下げだしており、基調は下向きの値動きが予想される。また日足が下げている10日移動平均線を下回り、40日移動平均線へ向けて下値を試す可能性は高いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,067,000 円(2022 年 5 月 9 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 5 月 9 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>